



# 緑丹会 LETTER vol.4

兵庫医科大学緑樹会兵庫北部支部会会報

## ～緑丹会会長通信～



片山 覚  
(緑丹会会長・S54年卒・卓球部)

皆様お元気ですか。今年は桜がきれいに咲きました。わたくしはささやま医療センターに6年間勤務しこの3月末をもって退官、市内の紀洋会岡本病院にお世話になっています。地域医療の大学病院として地域基盤型医学教育地域基盤型医学教育を実践するために、丹波篠山市、市医師会と連携充実に努めてまいりました。長年の懸案である経営基盤の安定化は、統合再編、公設民営化などを市とも話し合ってきましたが、現時点では見通しは立っていない状況です。しかし、教育の面では、学生は診断を探る問診を初めて経験し、研修医は必須化された外来研修で指導医のもと一人で診療するようになるようになり、勉強になったと言ってくれます。神戸市立医療センター中央市民病院、同西市民病院、姫路赤十字病院の研修医とともに研修し、ささやままでの交流がよい化学反応を起こしています。研究面では中山真美先生が、非常にアクティブで確実に地域医療の大学病院は成長しています。また、私が4月から務めている岡本病院の紀洋会は兵庫医科大学と、医療・介護相互包括連携協定を2020年4月1日に締結しています。丹波圏域の紀洋会の医療および介護施設と兵庫医科大学篠山キャンパスの医療および介護施設が連携し、人材の相互派遣、医療機器の相互利用、機能分化・集約・連携による効率化に加えて、兵庫医科大学医学生の地域医療実習を紀洋会の施設で行うことになっており、協定に従って地域基盤型の教育体制を進めていきたいと考えています。21世紀は高度専門医療とともに、多様性に対応できる地域医療が重要となると考えています。開業や継承前など、地域医療の経験を積んでいただく場所として、丹波篠山市を考えていただければ嬉しいです。

今年の桜は本当に見事でした。丹波篠山市は、篠山城跡や篠山キャンパスの桜が見事なのですが、兵庫県が整備するふるさと桜つつみ回廊の桜の木が成長して、県のホームページには「さくら周遊ルートマップ」が紹介されています。このレターが届くときには間に合いませんが、ぜひ桜の季節をはじめ四季折々の自然の豊かな篠山を訪れていただき、後輩たちがこの篠山で地域医療を学んでいることを思い出してください。



最後の医局会にて  
2023/3/27 @ささやま医療センター第2会議室







## ～兵庫医科大学ささやま医療センター病院長就任のご挨拶～

藤岡 宏幸（ふじおか ひろゆき）  
兵庫医科大学ささやま医療センター病院長・老人保健施設長  
医学部地域総合医療学講座教授  
神戸大学昭和63年卒剣道部（剣道3段）

この度、2023年4月1日付で兵庫医科大学ささやま医療センター病院長・老人保健施設長・医学部地域総合医療学講座教授を拝命いたしました藤岡宏幸です。整形外科専門医で、特に手外科、関節リウマチなどを専門にしています。兵庫医科大学ささやま医療センターは25年以上の歴史があります。大学が地域医療を行いその現場で教育を行うという全国に先駆けた取り組みを実践してきました。これまでの取り組みを継続して発展させつつ、兵庫医科大学病院と一層緊密に連携して、地域の皆様から信頼される医療センターになるように尽力いたします。これまで同様に、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、近況報告です。病院から徒歩10分のところにアパートを借りて妻と一緒に新しい生活を始めました。朝夕の気温は神戸より2～3度低く感じます。うぐいすの鳴き声とすがすがしい空気を感じながら徒歩通勤しています。通勤の途中ではあちこちの土手につくしを発見します。西宮キャンパスや神戸キャンパスとは全く異なる環境での新しい生活に慣れながら充実した勤務を行いたいと思います。



## ～ごあいさつ～

米田 秀志  
(米田病院 院長・S59年卒・バスケットボール部)

この度、ささやま医療センターの井上淳一先生の紹介で投稿させていただく事になりました昭和59年卒業の米田秀志と申します。井上先生とは兵庫医大の先輩のみならず中・高校も同じで腐れ縁のような関係です。私自身はささやま医療センターとの関わりは第4内科の大先輩の福田先生が院長の時に少し関わった程度でしたが、今は兵庫県老人保健施設協会では老健の事務の方と出会う程度になりました。

私が勤務している米田病院は加西市にあり、急性期病院は唯一市立加西病院しかなく丹波篠山市とよく似た環境にあります。皆さんに加西市ってどこに有るのか尋ねてもほとんどの方にはわかって貰えない所ですが、中国道のサービスエリアやゴルフ場の有る所ですと説明すると分かって頂ける事がよくあります。それに比べて丹波篠山市は黒枝豆・松茸・猪肉などとともに観光がありよく知られていますが、都会の人たちにはへき地のように思われています。しかし車での移動なら西宮や大阪にも一時間半もかからずに行け、京都に行くにも同じような時間で行ける所で結構便利な場所だという事が知られていません。やはり田舎って言う事が邪魔なんだろうが観光シーズンは高速道のインター出口が渋滞する位知られている場所ですよ。こんな魅力ある所をもっともっと医師達にも知っていただき篠山医療センターが盛り上がる事を切に願います。

話は変わりますが兵庫医科大学も昨年で創立50周年を迎えました。同窓会の会員数も4300名を超えています。我がA会員が30名ほどの加西市医師会にも同窓生がいます。私は今年で高齢者の仲間入りをしたせいか近くの病院に兵庫医大卒の先生が来られたと聞けば一度の面識もないのにほっとする気持ちがあり、一度お出合いしたいなと思います。人の繋がりがってそういうものですよ。直接見えていなくても同窓生という絆で繋がっています。田舎にも兵庫医大の卒業生は居ますので篠山医療センターが核となり、益々のご発展を祈りしご挨拶にかえさせていただきます。



## ささやまOBによる“丹波篠山いいところ発見”

### ～ささやまの魅力～



金澤優純

(純徳会田中病院 院長・平成7年卒・空手部)

私は兵庫医科大学を卒業後に兵庫医科大学病院の整形外科に入局し、現在は尼崎市武庫川町にあります田中病院で理事長をしております。今回、岡山先生から篠山の思い出をとのことで投稿させて頂きました。私は若い頃に神戸の須磨日赤病院整形外科で働いていましたが年末に上司に呼ばれ「おまえ年明けから篠山らしいで、挨拶いっとけよ」といわれ、後日に仕事が終わってから篠山までクルマを走らせた帰りに濃霧の中、長距離の帰路につき「どこまで通わなあかんねん」と心の中で不安に思ったことを今でも思い出します。

当時圓尾教授から「篠山老健で施設長をされている立石先生が施設のドクターが不在になり困っている。君は立石先生元ならどこでも行くといっていたな。」といわれ平成14年1月から異動となりました。篠山は初めての土地で片道50kmの通勤でしたが街並みも古く情緒があり里山の風景も好きになりました。しばらくは篠山老健で仕事をしておりましたが、整形外科での仕事を希望し篠山病院に異動させて頂き立石先生や松田先生の指導の下で働きました。松田先生には多くの患者さんを任せて頂き手術の経験を積むことができました。また立石先生にも手術に入って頂き多くを指導して頂いたことは今も感謝しております。また手術日には先輩、後輩の先生方と猪鍋をよく食べに行きました。大手前食堂、奥栄など地元では有名なお店で立石先生、松田先生にたびたび御馳走になりました。お二人にはこの場をかりて改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。平成14年から3年間を篠山で勤務したことは今もいい思い出です。最近は篠山に行くこともなかったので、これを機に久しぶりに訪ねてみたいと思いました。

### ～地元丹波の魅力～



岩倉 亮

(仙齡会はりま病院整形外科・H25年卒・競技スキー部)

私は、平成25年卒の岩倉亮と申します。現在は兵庫医科大学整形外科学教室に所属し、兵庫県加古郡にある仙齡会はりま病院で、一般整形外科医として勤務しております。入局した翌年の平成29年から約5年間、ささやま医療センターに在籍し、当時、整形外科部長の岡山先生から整形外科の極意を伝授して頂きました。

私は丹波篠山市の隣にある丹波市出身で、ささやま医療センターには家族が大変お世話になり、身近な病院でした。幼い頃からゆかりのある病院で働くことは、非常に感慨深く、地元の方に貢献できる喜びを感じました。また、現在では、出身校である兵庫県立柏原高等学校サッカー部にスポーツドクターとして携わり、スポーツ医学の大切さを後輩たちに伝える活動も行っています。老若男女問わず、丹波地域にスポーツを普及させたいという思いがあり、今後も医療を通して丹波地域を支えていきたいと考えております。丹波は山に囲まれた盆地で、四季折々にその色合いが変わり、心を落ち着かせてくれます。幼い頃は、山ばかりの景色にうんざりしていましたが、最近、山を駆け巡るトレイルランを始めてからは、丹波の魅力に改めて気付かされています。今では山が大好きです。丹波は四方八方が山で、トレイルランには最適な場所です。丹波で開催されたトレイルランレースはNHKで取り上げられる程、過酷なコースとして注目を集めています。また、遠方からハイキング目的に訪れる方も多くおられます。皆さんも、一度、丹波の山を訪れてみてはいかがでしょうか。虜になること間違いありません。



## ささやま研修医通信



向かって左から、  
宮澤先生・石井先生・山本先生  
丹波篠山の猪料理専門店 奥栄にて

篠山に来るまでは、今までした事のない外来業務、老健施設業務にとっても不安でした。また総合内科という知識量も多く、なかなか自分一人では力及ばない事も多くありました。先生方、他の病院の研修医とも協力し、無事1ヶ月をやり終えることができた安堵と達成感他では味わうことの出来ない経験でした。1ヶ月間ありがとうございました。

初期研修医 石井華怜  
(R3卒・バレーボール部)

2022年10月、11月にささやま医療センターで研修をさせていただきました。大学病院での研修と違い、毎日外来診療を行うため、軽症～重症の様々な疾患を経験することができました。初めて自分が主体となって外来診療を行うことになり、戸惑うことが多かったですが、上級医の先生方に親切にご指導いただき、身体所見の取り方、治療の考え方、患者への向き合い方など多くのことを学ばせていただきました。外来も病棟業務もとても忙しかったですが、非常に学びの多い充実した2か月間でした。ありがとうございました。

初期研修医 山本梨央  
(R3卒・卓球部)

兵庫医科大学病院研修医2年目の宮澤亜理彩です。2022年10、11月にささやま医療センターで研修をさせていただきました。外来業務と病棟業務を並行してみなければならず、慣れないことも多かったですが、上級医の先生方にはたくさんご指導いただき、同期達ともチームワークで2ヶ月充実した研修を終えることができました。また、大学病院では経験できない様々な症例をみることができ、貴重な学びの場となりました。ありがとうございました。

初期研修医 宮澤亜理彩  
(R3卒・軟式テニス部)





## Dr. Miyawaki ささやまフォトコラム

緑丹会副会長 宮脇 淳志  
 (兵庫医科大学ささやま医療センター副院長・H3年卒・写真部)



## ～春・篠山城～

篠山城は市の中心であり、観光スポットとして有名です。縄張り内には沢山のソメイヨシノが植えられており、城趾が桜色に染まり、石垣から零れるようです。寒さが厳しい土地ですが、桜の開花と共に一気に春本番となります。



## ～編集後記～

今年1月に頭の病気で本院脳外科にお世話になりました。幸い後遺症なく、2月末に職場復帰いたしました。ですが、緑丹会レター冬号が発刊出来ませんでした(涙)。入院中は、兵庫医大の同期や後輩が毎日のように来てくれて心強かったです。また、テニス部の先輩からはお花やお手紙などいただき感激しました。療養先が母校でよかったと思いました。SCUから一般病棟に移った最後の2日間は、パンが自由にトーストできたことが最高に嬉しい出来事でした(笑)。入院患者にとって「食事」って本当に大事と改めて感じました。

緑丹会事務局 中山真美  
 (兵庫医科大学ささやま医療センター総合診療科・H9年卒・硬式庭球部)



兵庫医科大学同窓会

緑樹会